

老健みやざき

第9号 平成16年3月



宮崎県老健協会

支援相談研究部会

おもたか

委員長 面高 俊一郎

介護保険スタートから平成十五年四月で三年を経過し、制度の改正が行われる中、支援相談研究部会も新委員体制になりました。委員長にむつみ苑施設長、面高俊一郎、副委員長にむつみ苑、清支援相談員、中央ブロック委員にサンヒルきよたけ、瀧砂支援相談員、県南ブロック委員にしあわせの里、竹内支援相談員、県西ブロック委員にこんにちわセンター、有馬支援相談員、県北ブロック委員にエクセルライフ、大賀支援相談員の計六名を中心に、県下四十二施設の支援相談員で活動しています。活動としては、年二回の委員会と全体会、各ブロック毎の年四回のブロック会を行っています。

まず、年度の初めに各ブロックより活動内容について意見を持ち寄り、委員会にて取りまとめを行って、全体会に結びつけるようにしています。平成十五年度第一回全体会は「今後の老健に求められるもの」をテーマとして、昨年十一月に三十七施設、四十六名の参加にて、宮崎県高齢者対策課・寺原様に、今後の介護保険制度の見通しについてご講義いただきました。

講義の中では、昨年四月に改正となったポイント、今後の制度の見通しについてご説明いただき、理解を

深めることができました。第二回については、三月に同じテーマにて老健協会、葺屋事務局長様に講義いただく予定にしております。また、昨年は平成十四年度の活動として取りまとめられた、在宅介護支援センター、医療機関のMSW等に老健のイメージや要望などをアンケートとして取りまとめられたものを、サンヒルきよたけ、瀧砂支援相談員により、九州老健大会・沖縄大会にて「アンケート結果報告」の演題名で症例発表として報告しました。

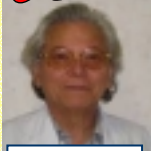
これまではこの部会で取り組んだものを報告する機会がありませんでしたが、このように報告することができ、今後の活動に良い効果を生むのではと思っています。また、平成十七年度の九州老健大会は宮崎での開催予定とのことで、新たなテーマにて研究し、症例発表として皆様の前で報告できればと現在検討中です。

平成十七年には介護保険制度の大きな改正があるのではと思いますが、これからも部会を通して、各施設の支援相談員の知識と質の向上を目指して、活動できればと思います。これからも支援相談研究部会を皆様のご理解と、ご協力にて支えていただければと思います。



活動紹介

おめでとうございます。



山本敏勝 氏

ハイム苑理事長山本敏勝氏が全老健会長表彰を授与

昨年10月に開催された全国介護老人保健施設大会(札幌市)で、介護老人保健施設ハイム苑(宮崎県日南市)理事長山本敏勝氏が全国老人保健施設協会会長表彰(全28名)を授与されました。同氏はハイム苑開設当初から宮崎県老人保健施設協議会の副会長を務め、平成5年に宮崎県で開催された第4回全国老人保健施設大会では実行委員長の重責を果たされ、また長年にわたり全老健の代議員を務められたことが評価されたものです。誠におめでとうございます。

きざみ食からソフト食へ

介護老人保健施設ひむか苑 栄養管理室長 黒田 留美子

摂食・嚥下障害のある高齢者に対して、従来、きざみ食やミキサー食が提供されてきましたが、きざみ食が嚥下障害のある人には危険な食形態であることや、きざみ食・ミキサー食ともに、もとの料理形態をなくすために食欲を失うことにもなり、口腔内に食物残渣がみられるなどの不具合を有していました。

そこで、それらの問題点を解決するためにさまざまな試行錯誤を行ない、5つの条件(見た目 かおり 味付け 適切な温度と食べ易さ 季節感の演出や楽しい雰囲気作り)を満たした上で、安全に提供できる食事を『ソフト食』と命名し開発を進めてきました。

開発コンセプトは、『しっかりとした形がありながらも、口に取り込みやすく、咀嚼しやすく、まとまりやすく、飲み込みやすい食事作り』でした。普通食の形態であり、摂食・嚥下障害のある人もない人も同じようにおいしく食べることができる食事です。

施設長・医師・スタッフ等多くのみなさんの協力を頂いて、いくつかのメニューを開発しました。

現在、県内外で広く注目頂いています。是非、病院・施設等で取り組んで頂きたいと思っています。

右は、ソフト食が掲載された新聞記事です。その他にもテレビで特集が放映される等、各方面で注目されています。(By 編集担当)



栄養・給食研究部会 “高齢者の正月料理(調理実習)”

12月2日(火)、宮崎市中央公民館にて高齢者の正月料理をテーマとした調理実習を行いました。北は高千穂から南は串間まで県内各地から約25名の栄養士が参加しました。

ひむか苑のソフト食を参考にメニューを考え、施設に取り入れることのできるメニューを作り、調理実習しました。メニューは、咀嚼や嚥下ができる食事であること、危険性が少ないこと、栄養価の高いものを考慮しました。また、すぐ実践できるよう施設の集団給食に適したものを選びました。



正月といえば、雑煮。雑煮といえば、お餅。お餅といえば、危険。しかし、正月では、お餅を提供したいものです。そこでソフト食としてひむか苑で作られているのが、米と山芋を混ぜて炊き、出来あがったものをすりこぎでつぶし、お餅のようにまるめ、お椀に入れて汁を注ぐ雑煮です。実際に調理実習し、試食するととても軟らかく嚥下しやすいお餅が出来上がりました。また、さつまいもとイカの天ぷらでは、さつまいもを蒸してつぶして砂糖や生クリームを加えて団子にし、芋の天ぷらの形に作り、天ぷらにします。

イカもミンチを使用し、つなぎに山芋と卵白を入れ、蒸してイカの天ぷらの形に切って揚げます。見た目も味も素材そのものでした。とても食べやすく、味も最高においしかったです。ソフト食からこのようなヒントを学び、とても勉強になったと思います。このヒントを基にいろいろ工夫ができることでしょう。

また、ディスカッションの時間では、調理の感想を中心にいろいろ意見が交換されました。栄養士相互の連携も研修会を通して活発になってきています。これからも利用者が喜んで食べて頂ける食事の提供、そして個別の栄養管理に努力していきたいと思えます。部会としても年を重ねるごとにレベルの高い勉強会が行われるようになっていきます。全体の栄養士の知識を高め、全国の先端に行く宮崎県になりたいものです。





活動紹介

待望のホームページ完成

<http://www.miyazaki-roken.jp>

企画広報委員会

宮崎県老健協会公式ホームページを3月1日に開設しました。協会では、ホームページの開設により、情報発信及び受信等の一元化（電話・FAX等を全てインターネットにて実施）による通信費のコストダウン及び最新情報の提供の構築を目指しており、さらに、ホームページの活用による施設間及び委員会間のネットワークを強固なものにしていきたいと考えております。

非公式ではありましたが、昨年10月3日に開催されました事務会にてサンプルを公開し「協会ホームページ立ち上げ及び施設間のネットワーク」について説明させていただき協会のホームページ開設への取組みが本格的に始まりました。

その後、12月18日に開催されました総務委員会では、ホームページを公開することについての意見をまとめた（承認を含む）「ホームページ公開に関する意見書」をもとに審議していただき、修正事項の調整がありましたが、条件付で承認をいただくことができました。

さらに、1月29日に宮崎県の補助事業でもあります、「サービス評価情報」のホームページ公開に向けて、「宮崎県老人保健施設協会によるサービス評価結果公表に係るホームページ構築についての会議」を開催いたしました。この会議で、サービス評価委員会との調整、評価様式等の問題提示がありましたが、どうにか開設までこぎつけることが出来ました。全面公開にはもう少し時間を要しますが、協会事務局と連携を図りながら、新鮮な情報発信が出来るようがんばっていききたいと思います。

以下は、平15年12月4日に宮崎県身体拘束ゼロ作戦推進事務局主宰の研修に参加された協会施設職員による研修報告です。

『身体拘束廃止と痴呆ケア参加報告』

午前中、『身体拘束廃止と痴呆ケア』について、介護老人保健施設なのはな苑看護部長松浦美知氏より講演があった。痴呆を理解する。問題行動は痴呆高齢者の無言のアピールであるということ踏まえ、なのはな苑での取り組みを事例やケアプランを通して講演された。身体拘束廃止に向けて、大切なことは、“身体拘束をしない”という認識のもと、ひとりひとりの意見を聞きながら、同じ気持ちになり、介護のレベルをあげていくことが、身体拘束廃止につながるということ学んだ。また、ケアの展開のために、科学的根拠に基づいたアセスメントシステムの導入を行ない、FIM(機能的自立度評価法)N-Mスケールによる周辺症状、痴呆疾患評価表を、個々のケアプランに活用されていた。現場でアセスメントしながら観察していくと、できるところ、いいところが見え、介護が楽しくなってくるという話であった。

午後は、グループに別れ、ひとつの事例に対し、指導者として、どう対応していくかについて話し合った。

会員施設新聞紹介



施設名称	エクセルライフ
住所	882-0803 延岡市大貫町 1-2850-1



施設名称	マイ・グリーンヒル
住所	882-0863 延岡市緑ヶ丘5-2-22



施設名称	かくらえん 神楽苑
住所	882-1102 高千穂町押方 1130

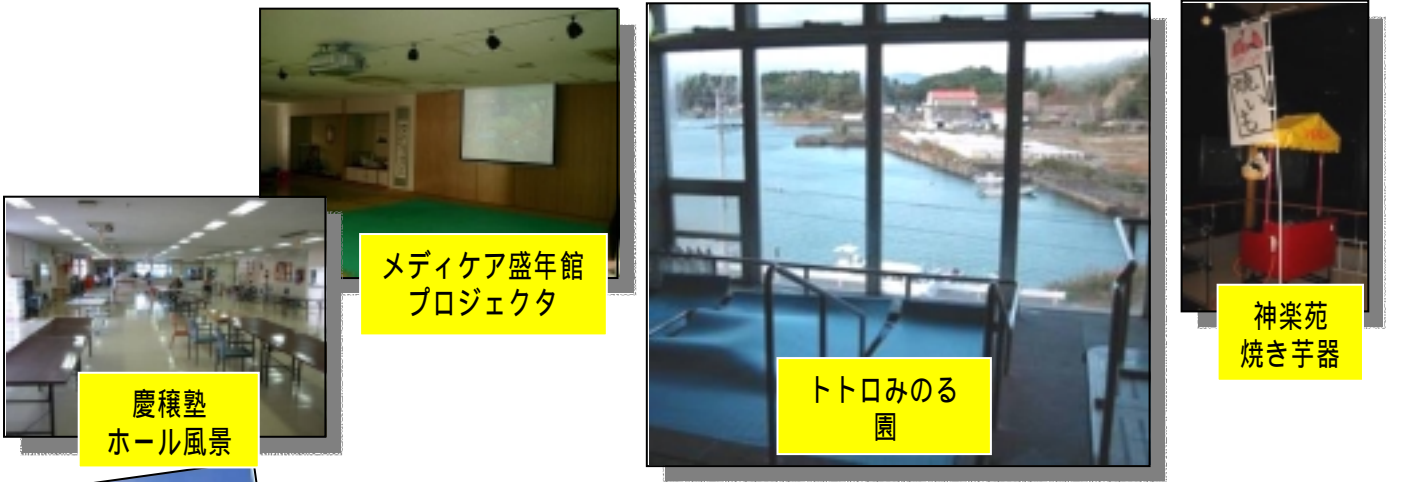
会員施設取材記事

私達(企画広報委員)は、11月28日～29日の2日間、会員施設の視察研修を実施いたしました。視察先は、次の7施設でした。(以降、敬称略)

- 1日目 『慶穰塾』・『メディアケア盛年館』・『トトロみのる園』・『神楽苑』
- 2日目 『エクセルライフ』・『昭和苑』・『マイ・グリーンヒル』

1日目

- ・最初に訪問した『慶穰塾』では、通常の畳の代わりに柔道畳が居室に敷かれていました。転倒事故のリスクを軽減するためだけでなく、衛生面や耐久性に効果を挙げているとのことでした。
- ・次に、『メディアケア盛年館』です。ここは、1階に駐車場・機能訓練室があり、2階・3階が入所サービスと通所リハが行なわれていました。また、デイルームでは大画面のTV番組が楽しめる様、プロジェクタが設置され大パノラマの放映がされていました。
- ・そして、『トトロみのる園』では、3階に展望浴場(檜風呂と大浴場)があり海の風景を満喫できるようになっていました。また、上下動式特殊浴槽が、利用者の満足度向上や身体の保温効果に役立っているそうです。居室にはカーペットが敷かれていて、転倒による事故も軽減し、予防効果があらわれているそうです。厨房には真空機器等があり、おいしく安全な食事が提供できているそうです。また、パソコンでの情報管理が充実していて、時間的なロスが減少し、利用者に滞りなくサービスを提供出来ているそうです。
- ・最後の『神楽苑』は、ゆとりのあるゆったりとした施設でした。西臼杵郡の寒い地域ですが、床暖房を取り入れているため施設内は大変あったかいそうです。また、面白い企画として食堂に、焼芋の器械を持ってきて、利用者に振舞ったところ、これが大変好評で、嚙下障害がある利用者のかたでもむせ込みも無く美味しそうに食べられるそうです。



慶穰塾
ホール風景

メディアケア盛年館
プロジェクタ

トトロみのる
園

神楽苑
焼き芋器



『昭和苑』さんへは、時間の都合等もあり、取材には行けませんでした。今回訪問した県北エリアの施設です。

会員施設取材記事

2日目 2日目は全て延岡市の施設で、それぞれとても特徴がありました。

- ・まず、『**エクセルライフ**』ですが、職員教育が行き届いているのか、見学途中で案内の方が予告無しにトイレコールをされると、わずか5秒で職員の方が駆けつけてこられました。通常はいけないと思っても「ちょっと待って下さい。」と言いがちですが、笑顔でスピーディーな対応は本当にすばしかったです。
- ・次に、『**昭和苑**』ですが、入浴時間を健常者が通常入る夜7時に設定されておられました。ほとんどの施設が、職員の勤務時間の関係上お昼からの入浴になっていることを考えると、やはり利用者本位に考える必要もあると思うところでした。
- ・最後に、『**マイ・グリーンヒル**』ですが、展示会を開くほどグループワークが充実しておりました。また、施設で使用されている、椅子やテーブル等がかなりハイセンスな物で、見ているだけでも楽しい雰囲気でした。



エクセルライフ
居室風景



マイ・グリーンヒル
玄関ホール



昭和苑
外観

居室の一角が、まるで自宅のようでした。
利用者の方も、ゆったりとしたリズムで生活されているようで、おじゃまして、お話ししてみたい雰囲気でした。



パンフレット

今回の視察研修で学んだ各施設の活動等を参考に、連携による情報交換を充実させ、宮崎県老健協会の会員施設に情報提供ができればと考えるものです。

今回、ご協力戴いた施設の関係者の皆様、お世話になりました。有難うございました。

行事紹介

第14回全国老健大会 in 北海道



去る10月15、16、17日に札幌市において全老健主催の全国介護老人保健施設大会が全国から約5,200名の参加を得て盛大に開催されました。宮崎県からは13施設56名が参加し、実践発表も10施設15演題が披露されました。参考までに前回の福岡大会は25施設112名の参加がありました。

大会初日(15日)は「高齢者ケアプラン策定実践講座」など7つの研修会が開催され、総勢1,100名が参加しました。16日には開会式、特別講演、記念講演、演題発表等が行われました。開会式では多くの来賓の方々の祝辞の後、介護老人保健施設事業への功労者に対し厚生労働大臣表彰(36名)、全国老人保健施設協会会長表彰(28名)及び第13回全国老健施設福岡大会優秀演題表彰(最優秀賞1題、優秀賞12題)の授与式が行われました。宮崎県からは介護老人保健施設ハイム苑理事長山本敏勝氏が全老健会長表彰を授与されました。同氏はハイム苑開設当初から宮崎県老人保健施設協議会の副会長を務め、平成5年に宮崎県で開催された第4回全国老人保健施設大会では実行委員長の重責を果たされ、また長年にわたり全老健の代議員を務められたことが評価されたものです。誠にありがとうございます。特別講演では中村秀一老健局長が「介護保険制度の現状と課題」と題して講演し、介護保険3施設の中で老健施設はリハを行い在宅復帰を目指す施設として位置づけられ、今後この機能をより一層果たしていくことが求められる。よって、リハ機能や在宅復帰支援機能を適切に評価するための仕組み(在宅復帰率など)を導入することも検討すべきであると述べ、次期介護報酬改定に含みを残す発言もありました。

最終日(17日)はパネルディスカッション、記念講演、演題発表、閉会式等が行われ、3日間にわたる大会は盛会裏に終了しました。なお次期大会は、平成16年11月10日～12日に香川県高松市で開催されます。

最後に私なりの全国大会の活用方法について触れたいと思います。本大会は老健施設全職種が参加できること、実践発表数も1,000題にのぼり全国の先進的取り組みや調査統計報告が吸収できること等を勘案すると、この大会を目標に実践発表題材を採求する意識を育てる。職種間のコミュニケーションを図る場として活用できる。自施設の業務改善のヒントを得るための場として活用できる。という観点に立って参加を検討されてはいかがでしょうか。

報告者：宮崎県老人保健施設協会 事務局長 蔵屋 徳一

宮崎県老健研究大会



第3回社団法人宮崎県老人保健施設協会研究大会が「今後の老健に求められるもの」をテーマにシエラトン・フェニックス・ゴルフリゾート国際会議場に約200名の参加者を集め盛大に開催された。

冒頭、大野和男宮崎県老人保健施設協会会長、河野博宮崎県福祉保健部次長の挨拶で始まり、『老健施設のサービス評価』のテーマで東明先生(財団法人宮崎県老人保健施設協会 サービス評価委員会)の教育講演が行われた。東先生は、「サービス評価のこれまでの経過」や「委員会の構成や役割」、「なぜ評価が必要なのか？」等、講演され「会員施設の積極的な取り組みを・・・」と呼びかけられた。その後2会場に分かれ15題の研究発表が行われ、なかでもユニットケアの研究発表では質疑応答の時間が足りないほど盛況であった。

午後からは、宮崎県及び宮崎県身体拘束ゼロ作戦推進会議主催による宮崎県身体拘束ゼロシンポジウムが約600名の関係者が集まり、関心の深さが窺われた。主催者挨拶後、田中とも江先生(拘束廃止研究所 所長)による『拘束なき痴呆ケア』と題して基調講演が行われたが、現在最も必要とされている「痴呆性高齢者ケア」が「身体ケア」と比べて遅れている現実、それによる痴呆性高齢者の苦悩が理解されていない点を厳しく指摘され、意識改革の必要性を訴えられた。その後3名のシンポジストを招いて「身体拘束の現状と今後の課題」と題してシンポジウムが行われたが、どのケースにおいても実践し、形となるまでの戸惑いや苦労が伝えられ、結果的に実践してよかったとの統一した意見があり、利用者を知るところから始める身体拘束解除への取り組みをさらに考えさせられる会場となった。

編集後記

春暖の候、ひと雨ごとに春の色が濃くなっているような感じがいたします。さて、老健みやざきも第九回目の発行となりました。今回は、東北の施設取材をさせて戴きましたが、施設の改良点等、書き表せない程の勉強をさせて頂いたと思っております。忙しい時間を割いて、取材にご協力戴きました各施設の皆様、誠にありがとうございました。御座いました。この場を借りて、御礼申し上げます。

企画・広報委員会

ご案内

- ・ 第七回九州地区老健大会
- ・ 開催場所 佐賀県
- マントピア
- (佐賀市新築三七八)
- ・ 日程
- 五月二十七日(木)
- 二十八日(金)